

安全データシート (SDS)

改定日: 2023年4月1日

1. 化学品及び会社情報

製品名	ラスプロ W-57		
推奨用途	水溶性添加剤		
使用上の制限	上記以外の用途		
会社名	日本グリース株式会社		
住所	横浜市鶴見区末広町1-12-4		
担当部門	営業本部	電話番号 045-501-0781	FAX番号 045-504-2213
緊急連絡先	技術研究所	電話番号 078-731-8147	
整理番号	J424902103		

2. 危険有害性の要約

GHS分類	皮膚腐食性/刺激性:区分1 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性:区分1 発がん性:区分2 生殖毒性:区分2 特定標的臓器毒性(単回暴露):区分1(肝臓)、区分2(呼吸器系、腎臓) 特定標的臓器毒性(反復暴露):区分1(気道、精巣)区分2(肝臓、腎臓、血液) 水生環境有害性 短期(急性):区分2 水生環境有害性 長期(慢性):区分3
-------	--

GHSラベル要素
絵表示

注意喚起語	危険
危険有害性情報	H314: 重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷。 H318: 重篤な眼の損傷。 H351: 発がんのおそれの疑い。 H361: 生殖能または胎児への悪影響のおそれの疑い。 H370: 臓器の障害(肝臓)。 H371: 臓器の障害のおそれ(呼吸器系、腎臓)。 H372: 長期にわたる、または反復暴露による臓器の障害(気道、精巣)。 H373: 長期にわたる、または反復暴露による臓器の障害のおそれ(肝臓、腎臓、血液)。 H401: 水生生物に毒性。 H412: 長期継続的影響により水生生物に有害。

注意書き

【安全対策】	P201: 使用前に取扱説明書を入手すること。 P202: 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。 P260: 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。 P264: 取扱後は手をよく洗うこと。 P270: この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。 P273: 環境への放出を避けること。 P280: 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
【応急処置(対応)】	P310: ただちに医師に連絡すること。 P314: 気分が悪い時は、医師の診断/手当てを受けること。 P301+P330+P331: 飲み込んだ場合: 口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。 P303+P361+P353: 皮膚(または髪)に付着した場合: 直ちに汚染された衣類をすべて脱ぐこと/取り除くこと。皮膚を流水/シャワーで洗うこと。 P304+P340: 吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 P305+P351+P338: 眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 P308+P311: 暴露した場合: 医師に連絡すること。 P308+P313: 暴露または暴露の懸念がある場合: 医師の診断/手当てを受けること。
【保管(貯蔵)】	P405: 施錠して保管すること。
【廃棄】	P501: 内容物/容器を、国際/国/都道府県/市町村の規則に従って廃棄すること。

※GHS分類から導かれる上記注意書きに記載がない場合でも、本SDS4～8章を参考にし安全対策/応急措置/保管/廃棄に関し十分な配慮を行うこと。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	混合物
化学名又は一般名	熱処理油添加剤
成分及び含有量	添加剤 100%
化学特性(化学式)	特定できない
官報公示整理番号	企業秘密なので記載できない
CASナンバー	企業秘密なので記載できない
危険有害成分	
化学物質管理促進法(PRTR法)	2023年3月31日まで 非該当 2023年4月1日以降 第1種指定化学物質 ジエタノールアミン 40%(代表値)
労働安全衛生法 毒物劇物取締法	表示対象物(通知対象物): ジエタノールアミン 30-40% 該当せず

4. 応急措置

「2. 危険有害性の要約—ラベル要素—注意書き—応急処置(対応)」を参照。

医学的な助言が必要な時には、製品容器やラベルを持っていくこと。

吸入した場合	<ul style="list-style-type: none"> ・ 空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 ・ 気分が悪い時は、医師の診断/手当てを受けること。
皮膚(または髪)に付着した場合	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多量の水と石鹸で洗うこと。 ・ 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。 ・ 皮膚刺激または発疹が生じた場合は、医師の診断/手当てを受けること。
眼に入った場合	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 ・ 眼の刺激が続く場合は、医師の診断/手当てを受けること。
飲み込んだ場合	<ul style="list-style-type: none"> ・ 無理に吐かせないこと。 ・ 口をすすぐこと。 ・ 直ちに医師に連絡すること。

5. 火災時の措置

適切な消火剤	・ 粉末消火器。二酸化炭素消火器。泡消火剤。
使ってはならない消火剤	・ 棒状注水
特定の消火方法	・ 人々を避難させる。火を隔離して関係者以外の立ち入りを禁止する。火が消えて再発火の危険がなくなるまで、火に曝された容器および火災の影響を受けた領域を冷却する。保護された場所から、あるいは十分に安全な距離から消火に当たる。
消火を行う者の保護	・ 自給式呼吸装置および防火服(防災ヘルメット、コート、ズボン、長靴および手袋を含む)を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	・ 適切な保護具を用いること。「8. 暴露防止及び保護措置保護具」を参照。
環境に対する注意事項	・ 土壌、排水溝、下水道、水路や地下水への流入を防ぐ。
封じ込め及び浄化の方法・機材	・ (大規模の漏洩) 漏出物を囲い込むため堤防を築く。正しくラベルの貼ってある適切な容器にポンプで送る。(少規模の漏洩) 以下の物質で吸収させる(不燃性物質、砂)。正しくラベルの貼ってある適切な容器に回収する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	
全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。	
技術的対策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「2. 危険有害性の要約—ラベル要素—注意書き—安全対策(予防策)」を参照。 適切な換気をすること。 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。 熱/火花/裸火/高温のもののような着火源から遠ざけること。一禁煙。
局所排気・全体換気	「8. 暴露防止及び保護措置」の排気装置を参照。
注意事項	・ 漏れ、あふれ、飛散を防ぎ、みだりに蒸気を発散させない。

- この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
- 安全取扱い注意事項
 - 容器は転倒させ、落下させ、衝撃を加え、または引きずる等の取扱いをしてはならない。
 - 保管
 - 保管場所には、必要な採光、照明及び換気の設備を設ける。
 - 「2. 危険有害性の要約ーラベル要素ー注意書きー保管(貯蔵)」を参照。
 - 直射日光を避け、換気の良い冷暗所に、密封して保管する。
 - 酸化性物質等との同一の場所で保管しないこと。
 - 法規に規定された基準に従って保管する。
 - 子供の手の届かないところに置くこと。
 - 技術的対策
 - 安全な保管条件
 - 耐腐食性/耐腐食性内張りのある容器に保管すること。
 - 輸出する場合は、国連輸送法規で規定されている容器を使用する(「14. 輸送上の注意」参照)。
 - 安全な容器包装材料
 - 耐腐食性/耐腐食性内張りのある容器に保管すること。
 - 輸出する場合は、国連輸送法規で規定されている容器を使用する(「14. 輸送上の注意」参照)。

8. ばく露防止及び保護措置

- 管理濃度
 - 「15. 適用法令」の「労働安全衛生法(作業環境評価基準)」参照
- 許容濃度
 - 日本産業衛生学会(2010): 設定されていない。
 - ACGIH(2011): ジエタノールアミンTWA:0.2ppmIFV 1mg/m³IFV Skin
- 設備対策
 - (換気)局所排気装置や他の排気装置を使用して、気中濃度が許容濃度や管理濃度より低くなるように管理する。
 - 許容濃度や管理濃度が設定されていない場合、通常の作業は全体換気を行うことで十分である。一部の作業には局所排気装置が必要になることがある。
- 保護具
 - 呼吸器用の保護具
 - 適切な保護マスクを着用すること。
 - 手の保護具
 - 適切な保護手袋を着用すること。
 - 眼、顔面の保護具
 - 適切な保護眼鏡を着用すること。
 - 皮膚及び身体の保護具
 - 適切な保護服、保護長靴を着用すること。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	液体
色	無色
臭い	臭気あり
pH	10.9(20°C,代表値)
融点/凝固点	データなし
滴点	データなし
沸点又は初留点及び沸騰範囲	データなし
引火点	データなし
可燃性	データなし
自然発火点	データなし
爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界	データなし
蒸気圧	データなし
密度及び/又は相対密度	1.07(20°C,代表値)
溶解性	データなし
n-オクタノール/水分配係数	データなし
分解温度	データなし
動粘性率	データなし
相対ガス密度	データなし
粒子特性	データなし

10. 安定性及び反応性

- 反応性
 - データなし
- 化学的安定性
 - 推奨される保管条件下で安定している。第7項、保管を参照。
- 危険有害反応可能性
 - 「混蝕危険物質」と反応する。
- 避けるべき条件
 - 高温。
- 混蝕危険物質
 - 強酸、強酸化剤、無水物
- 危険有害な分解生成物
 - 分解生成物は温度、空気の供給および他の物質の存在による。
 - 火災時の煙には、元の物質に加えて、毒性や刺激性があるかもしれない様々な燃焼生成物が含まれていることがある。

燃焼/分解生成物は以下のものを含むことがあり、またこれだけとは限らない:窒素酸化物、一酸化炭素、二酸化炭素。

11. 有害性情報

急性毒性	1 経口	ATEmix > 2000mg/kg (代表成分よりの推定値。混合物の10%以下は毒性が未知の成分からなる。)
	2 経皮	ATEmix > 2000mg/kg (代表成分よりの推定値。混合物の10~20%は毒性が未知の成分からなる。)
	3 吸入:蒸気	データなし
	4 吸入:ミスト	データなし
皮膚腐食性/刺激性	・「2. 危険有害性の要約健康に対する有害性」を参照。	
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	・「2. 危険有害性の要約健康に対する有害性」を参照。	
呼吸器感作性又は皮膚感作性	・「2. 危険有害性の要約健康に対する有害性」を参照。	
生殖細胞変異原性	・「2. 危険有害性の要約健康に対する有害性」を参照。	
発がん性	・「2. 危険有害性の要約健康に対する有害性」を参照。	
生殖毒性	・「2. 危険有害性の要約健康に対する有害性」を参照。	
特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	・「2. 危険有害性の要約健康に対する有害性」を参照。	
特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	・「2. 危険有害性の要約健康に対する有害性」を参照。	
誤えん有害性	・「2. 危険有害性の要約健康に対する有害性」を参照。	

12. 環境影響情報

生態毒性	・「2. 危険有害性の要約健康に対する有害性」を参照。 (本混合物の成分 10~20%は水生環境有害性が不明である。)
残留性/分解性	・ データなし。
生態蓄積性	・ データなし。
土壤中の移動性	・ データなし。
オゾン層への有害性	・「2. 危険有害性の要約健康に対する有害性」を参照。

13. 廃棄上の注意

「2. 危険有害性の要約ラベル要素—注意書き—廃棄」を参照。	
残余廃棄物	・ 関連する法律や地方条例に従い廃棄すること。 ・ 廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。 ・ 都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。
汚染容器および包装	・ 関連する法律や地方条例に従い廃棄すること。 ・ 空容器を廃棄する場合は内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

国連分類、品名等	・ 腐食性物質(クラス8)/その他の腐食性物質(有機物)(液体)(アルカリ性のもの)/容器等級Ⅱ
国連番号	・ UN3267
消防法	・ 「15. 適用法令」参照
毒物劇物取締法	・ 「15. 適用法令」参照
輸送前に容器の破損・腐食・漏れ等がないことを確認する。転倒・落下・破損が無いように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。「7. 取扱い及び保管上の注意」を参照。	
この情報は、この製品に関わる特定の法令や輸送上の条件を全てお知らせするものではありません。この物質の輸送にあたっては、輸送会社の責任において、適用される全ての法律、規制、規則に従ってください。	

15. 適用法令

消防法	該当せず
毒物劇物取締法	該当せず
化学物質管理促進法(PRTR法)	2023年3月31日まで

非該当

2023年4月1日以降

第1種指定化学物質 ジエタノールアミン 40%(代表値)

労働安全衛生法

表示対象物(通知対象物): ジエタノールアミン 30-40%

この情報は、この製品に関わる特定の法令を全てお知らせするものではありません。

16. その他の情報

※本書類中の%表示については、特に指定のない限り「質量%」を表す。

【参考文献】

原料SDS

安全データシート(SDS)は、危険有害な化学製品について、安全な取扱いを確保するための参考情報として取扱事業者にご提供されるものです。取扱事業者は、これを参考として、自らの責任において、個々の取扱い等の実態に応じた適切な処置を講ずることが必要であることを理解した上で、活用されるようお願いいたします。従って本データシートそのものは安全の保証書ではありません。また本データシートはJIS Z7253:2019に沿って、潤滑油協会にて作成したSDSモデル及び改定日時点で弊社のサプライチェーンを通じ上流メーカーから得られた情報を基に作成したものであり、その内容やデータについて弊社製品そのものを反映しているわけではなく、すべてを保証するものでもありません。各種法令改正や製品情報の改定により今後も内容が変更されますので、販売・流通事業者は、取扱事業者に対し、常に最新の安全データシートを提供するようにお願いします。